

## 岩手県野田村の支援・交流活動報告（2012年5月20日）

今年度は初めてのチーム・オール弘前の活動は、2012年5月20日（日曜日）、田植えの支援・交流活動を行いました。早くも田植えの時期とは、時のたつのは早いもの。晴れわたった気持ちのよい空のもとで、汗を流しました。今日のチーム・オール弘前の参加者は、市民11人、学生8人、教員2人の計21人です。10時半頃にみんなを乗せたバスが野田村役場前に着き、それから、10人ずつで2班に分かれて、作業を行いました。

### < A班の活動 >

A班は、米田地区の米田さんや古舘さんらの田んぼで、苗の入った箱を用水路で洗ってひもでしばるという作業をしました。最初は、どうしようかと少し考えながらでしたが、土手の上にてひもでしばる係と、洗う係とで分担するとか、水を箱で少しせき止めて水量を増やすと洗いやすいとか、徐々に効率がよくなってきて、テキパキ進んで行きました。



たくさんの箱が積み上げられているのを、少しずつきれいにしていく。



用水路で一列に並んでせつせつと洗う。表も裏もたわしでゴシゴシ。

作業の合間にいろいろとお話をうかがいました。震災後、米田さんは住民のみなさんの田んぼをまかされて、耕作する面積が格段に増えたそうです。震災で耕運機などの機械を流されてしまったが、後継ぎの見通しが立たない中、新たな機械への投資は難しいこと、高齢化が進んでいることなど、震災後の農業をめぐる状況はさまざまな難しさがありそうでした。そうしたなかで、田んぼを引きうける地域リーダーの米田さんの「覚悟」は大変なものだろうと思いました。また、最後に古舘さんが、「ここは全部ガレキだったのに、田植えができるようになって・・・」と、広がる水を張った田んぼを見渡しながら、感慨深そうにおっしゃいました。この米田地区の海に近い田んぼは津波が押し寄せており、一面、ガレキに埋め尽くされていたそうです。一見すると田んぼの広がるのどかな風景に見えますが、そこにはさまざまな思いや状況があることの一端に、今回、作業を手伝わせていただいて、気づかされました。



トラックに積み上げられる、洗い終わった箱。少し洗い方が甘かったかも、反省。



田植えの終わった風景。奥に震災後に再建された防波堤と水門が見える。

#### < B班の活動 > (本項のみ作道執筆)

B班は、いつも昼食をいただく「かまどのつきや」の小野寺さんのお手伝いに行きました。仕事は苗の入っている箱を洗って紐で結ぶ作業と、土を袋に分ける作業でした。

まず、午前中 10 時半から 12 時まで、二手にわかれて活動をしました。“土”組は、4 トンの黒土を袋詰めにして運びやすくする作業です。男性 5 人があたりました。この土は山手の畑に運んで使うとのこと。ひとりが袋を持ち、ひとりがスコップを使って土を入れ、最初のひとりが運ぶという作業でした。もう一組は“洗い”組で、稲の苗をいれる四角いプラスチックの容器を川で洗いました。田植えには 100 以上の容器を使うのです。女性 3 人と男性 1 人があたりました。実業高校から来た高校生のおふたりも一生懸命でした。

昼は、つきやさんのいつもの座敷をお借りして、各自持参の昼食をとりました。そのときに、畑で取り立てのニラがいっぱい入ったお汁を出していただきました！！そのおいしかったこと、感謝です。



“土”組の作業の様子。奥の袋がどんどん積み上げられていく。



“洗い”組の作業中。浅い川の中に入って、ジャブジャブ洗う。水はけっこう冷たい。



今日は体力勝負でした、“土”組の面々。



お昼ご飯に、新発売の「のだ塩ほたて弁当」(700円)を賞味。海の幸がてんこもり！

午後も多少メンバーをいれかえて、同じ作業です。土組は休憩をいれながら仕事を続けます。土はかなり減りましたが、すこし残して作業終了、60袋になりました。川へ見に行くと、女性3人が川にたって、たわしで洗っています。積み上げた容器を男性が10ずつ、ひもでしばっていきました。今日の仕事は終了です。3時になってバスが来たので、皆で撤収してくると・・・おいしいものが待っていたのです。

焼きたてのアツアツ豆腐田楽、こうばしい食欲をそそる香りをふりまく焼き鳥、ぽってりと丸い魅惑の草もち、ツヤツヤの緑鮮やかなニラ・・・米田さんたちがたくさんのおやつを用意してくださっていました。さっそく、おいしく楽しい交流の時間に突入、できたてのおやつの数々を頬張りながら、しばし楽しい時間を過ごしました。おいしい焼き鳥の焼き方の講習も受けました。農繁期のたいへんお忙しいときに、私たちのために準備をしてくださり、また作業を手伝わせてくださり、みなさんに深く感謝したいと思いました。



田楽が炭火に焼かれて、本当においしそう。冷えた身体も心もすっかり温まる。



焼き鳥もその場で焼いてくださり、パクリ。早く作業が終わっていたA班は、B班が来る前に、先に焼き鳥を食べまくって歓談。

(人文学部教員 山口恵子・作道信介)